

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年10月3日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0891200016		
法人名	有限会社 凜成		
事業所名	グループホーム 花あかりの家	ユニット名	1階
所在地	〒313-0106 茨城県常陸太田市下利員町1262番地の1		
自己評価作成日	平成23年4月18日	評価結果 市町村受理日	平成23年9月20日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成23年5月19日	評価確定日	平成23年9月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>自然に恵まれて交通量も少ないので春や秋の穏やかな陽気の頃は、ホーム近辺を散歩したり花見に出掛け自然を満喫しています。初夏頃よりホームの後ろにある畑をスタッフの協力を得ながら耕し、育った野菜を入居者と一緒に収穫して調理してもらい皆でいただきます。</p> <p>・毎月入居者に生活の楽しみや刺激を持って頂く為に、誕生会・外出・催し物を計画したり、家族と関わりを持って頂く為に、面会（ケアマネから状態・近況をお話します）や外出を勧めています。</p> <p>・スタッフの要望・意見があれば管理者や施設長が把握できるように、コミュニケーションを欠かさず話しを聞いたり相談に乗りながら雰囲気的大事にしています。</p> <p>・入居者の生活のリズムを大事にしその人に合った介護や対応を心掛ける為に、毎月のミーティングを欠かさず皆で共有する事にしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は山林や畑に囲まれた自然豊かな環境に立地し、敷地や建物は広くゆとりのある設計となっている。</p> <p>職員は家庭的で和やかな雰囲気を大切にしながら利用者を支援し、代表者がしばしば連れてくる愛犬は利用者の癒しとなっている。</p> <p>代表者は地域のグループホーム連絡協議会の役員を担っているほか、施設長は認知症サポーター養成講座の講師を担うなど、グループホームや認知症の理解を図りながら地域に貢献している。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
I 理念に基づく運営							
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に貢献していくという点を理念に加えた。私達のサービスの資質を高め、それが地域に貢献していくことになるという意味を込めて毎日朝礼の際に、「資質の向上に努め地域に貢献します。」という理念を毎日復唱している。	法人理念を朝礼時に全職員で唱和して共有を図り実践に努めているが、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成するまでには至っていない。	全職員で話し合い、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成することが望まれる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年の施設の納涼祭では近所の方に歌や踊りを披露して頂いた。また地域の運動会やお祭にも毎回参加、紹介をしてもらい、徐々に馴染みのある関係が築かれている。	事業所の納涼祭で近隣住民に歌や踊りを披露してもらったり、利用者が地域の運動会や祭りに参加するなど、地域の人々と交流している。 中学生の職場体験を受け入れているほか、近隣住民からは収穫した野菜のお裾分けがあったり、東日本大震災の時には安否確認の声かけをしてもらうなど、利用者は地域とつながりながら暮らしている。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会を通して、地域の方に入居者の状況を把握してもらい、理解をしていただく。	/		/	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会で地域の方にサービスの報告をすることによって、利用者の事を理解してもらい、今後の取り組みについても話し合っている。	運営推進会議は市担当者や市社会福祉協議会職員、町内会長、民生委員、老人会会長などで2ヶ月に1回開催している。 会議では行事報告や避難訓練の報告をしたり、緊急時に地域住民の協力が得られるように呼びかけているほか、委員から出た意見等を話し合いサービスの質の向上に活かしている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表者は認知症サポーター養成講座の講師として市と連携をとりながら協力体制を組んでいる。	法人の代表者は認知症サポーター養成講座の講師や地域のグループホーム連絡協議会の役員を務め、地域全体の認知症介護の質の向上を図るために市担当者と連携を図っているが、各ユニットの管理者は市担当者に相談したり協力体制を築くまでには至っていない。	各ユニットの管理者は市担当者と積極的に連携を図り、協力関係を築くよう取り組むことを期待する。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホールから出入り口が見えずらく、依然施錠したままとなっている。それが当たり前になっているので、今後なんとか改善をしていきたい。	身体拘束排除に向けたマニュアルを作成するとともに、全職員が身体拘束の内容と弊害を認識し、玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 事故防止の観点から2階の階段前に柵を設置しているが、家族等に説明のうえ承諾を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回のミーティングなどで皆で学び合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	研修等で学ぶ機会はあるものの、それをなかなか現場のスタッフ全員に理解、浸透させるのは時間がかかりますが、今後学ぶ機会を設けたい。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に施設長（ケアマネ）が契約、説明を行い、ご家族が納得された上で入居されている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来た際に担当したスタッフが意見や要望をくみあげ、記録している。家族からの要望で、豆乳やヤクルトを飲ませたりお金を預かり本人の希望するものを買ってきてほしいなど、利用者の方が自分で要望できずとも、本人の希望する、以前に近い生活にできるよう努力している。	玄関に意見箱を設置するとともに、職員は家族等の来訪時に意見や要望を聴くように努めている。利用者や家族等から出た意見等を記録に残すため苦情・要望報告書を用意しているが、活用される機会は少ない。	利用者や家族等が気兼ねなく意見や要望を出せるよう、無記名のアンケートを実施したり家族会を設立し、出た意見等を運営に反映させるように取り組むことを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は月1回のミーティングや朝礼などで、スタッフの意見や提案などを聞いて運営に反映させている。	代表者や施設長、各ユニットの管理者は月1回ミーティングを開催し、職員の意見や提案を聞く機会を設けるとともに、出た意見等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各人に担当の係をつけ職場環境がよくなるように働いていただいている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受けて来た代表者が、ひだまり、花あかり合同で勉強会を開催し皆に伝える様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	主に代表者が機会を作り、セミナーや勉強会などに参加を促している。多くのスタッフが参加出来ている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に代表者が本人と面会をし、本人の事を理解し、要望等を聞き出すようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と面会をし、本人の事を良く理解したうえで要望等を聞き出すようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者一人ひとりにあったサービスを心掛けています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にもある、入居者の方たちと共に寄り添い、家族のように暮らしていけるように心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、常に、面会に来て頂いたり、外出をお願いしたりして入居者の方が家族と触れあい、よろこんで頂ける機会を大事にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた知人や親せきに対して再度来てもらえるように促している。また、行きつけの病院やお店などで偶然、ご近所の方々に遭遇することが多くそこで、みなよろこばれている。	家族等の協力を得ながら、利用者の馴染みの場所への外出を支援している。 職員は利用者の親類や知人等に来訪を働きかけ、利用者との関係が途切れないように努めているほか、来訪が困難な場合は葉書等のやり取りを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフ一人ひとりが入居者それぞれの間関係を理解し、スタッフが仲介をしたりしてよりよい人間関係を築けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も、代表者が主に連絡を取り合い、対応している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活歴や職業歴などを把握するために、入居前に本人の情報を提示し、スタッフに把握してもらっている。	入居時のアセスメントにおいて、利用者の生活歴や職歴、趣味、利用者が望む生活を把握し記録している。 職員は日々の生活の中で利用者の言動や表情から思いや意向の把握に努めるとともに、何気ないつづやきも記録し、全職員で共有している。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までどういう経過でここに来たのかを全員が把握し、スムーズにこの生活に慣れて頂けるように努めている。	/		/	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	残存能力を活かすために入居者の方ができることを把握し、また心身状態をよりよく保てるように、これまでの一人ひとりの生活パターンを把握することなどに努めている。				
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員（施設長）が作成したケアプランをもとにスタッフから出た意見を反映させて介護計画を作成している。	介護支援専門員はアセスメントを行うとともに、利用者や家族等、職員で話し合い、利用者や家族等の思いや意向を踏まえた介護計画を作成している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、その都度現状に即した介護計画に見直している。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人のケース記録にその時対応したスタッフが随時書き込むようにしている。その情報は一日の申し送りとしてスタッフ全員が共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や入居者のご家族の状況の変化に伴い、介護支援専門員と入居者のご家族との間で今後のサービスの内容を検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お店が近くにない為、買い物の際は入居者の方と車で移動している。また病院は近くにある病院を利用している。またボランティアの方にも折あるごとに来て頂き踊りや歌など披露して頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所される際に、本人、家族から希望を聞き、また特になければ近くの病院を勧めている。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医への受診を支援するとともに、適切な医療が受けられるよう、かかりつけ医との連携を図っている。 家族等が受診に付き添う場合は、利用者の普段の状態を的確に伝えるとともに、受診結果を記録し全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で気付いたことはすぐに看護師に相談し見てもらうようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した際は継続して、介護支援専門員（施設長）が定期的に病院へ行き状態の把握、病院との情報交換、家族への相談に努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人、家族、病院と話し合いを十分に行いながら支援に取り組んでいる。</p>	<p>「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、看取りにおいては医師による説明や意思確認を行い、医師や看護師、職員などで協同して支援にあたることを明記するとともに、利用者や家族等の同意を得ている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的に訓練をしている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>今回の災害で、実際に体験し、重度の方の避難方法や、入居者の対応などさまざまな課題や不明な点が見えた。今後こういう事が起きた時にどうしたらいいかを話しあい、スタッフ全員が身につけるようにしたい。また今回は地域の方から支援を受けることができた。その協力体制や連絡体制も地域で話していきたい。今後、地域では防災組織を立ち上げる予定になっており、当施設も組織に加盟していく予定です。</p>	<p>消防署協力のもと総合訓練と夜間想定を含む避難訓練を年2回実施しているが、改善点などを記した実施記録を作成するまでには至っていない。 東日本大震災では地域の人々の支援を受けるなど、協力を得ている。</p>	<p>東日本大震災を教訓に地震災害も含めたマニュアルの見直しをすることを期待する。 避難訓練の実施記録を作成するとともに、訓練で明らかになった課題を記録し、次回の訓練に活かすよう取り組むことを期待する。 立ち上げが計画されている地域の防災組織に加盟する予定であり、地域との協力体制の構築に向けて実現するよう取り組むことを期待する。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けには良く注意している。たとえば名前を呼ぶ際にも利用者との距離感を測りながら臨機応変に呼び方を変えている。プライバシーに関しては、排泄の際はきちんと扉を閉めるなど徹底している。	職員は日頃から利用者に対して人格を尊重した言葉遣いをするよう配慮するとともに、不適切な言葉かけがないよう定期的に職員ミーティングで話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	小さなことでも本人の希望を聞き、本人の希望に沿ったケアを実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念にもあるように、一人一人に合った生活のペースを大切にしている。ただスタッフのその日の人数や都合によっては希望通りにならないこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	たとえば外出の時や、病院受診の時には、洋服を着替えたり、化粧をするなどして本人が生き生きとその時間を過ごせるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は入居者の方と一緒に食べ、後片付けも一緒に行っている。行事の時は、お寿司など利用者の食べたいものを提供したり、たまに外食にも行っている。	利用者と職員は同じテーブルを囲み、ゆったりと楽しみながら食事をしている。 利用者は能力に応じて食事の準備や後片付けをしているほか、誕生ケーキのトッピングやおやつ作りに参加している。 職員は庭で食事をする機会を設けるなど、利用者が食事を楽しめるように支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケース記録に水分量をチェックしているため、スタッフがそれを見ながら調節している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けをし、口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の立位できる状態をみながら、なるだけトイレで排泄できるよう支援している。	職員は排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、的確なトイレ誘導によるトイレでの排泄支援をしている。 入居前はトイレの場所が認識できずおむつを使用していた利用者が、適切な声かけを継続することによりトイレで排泄ができるように改善している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を見ながらチェックしている。便秘の方にはマッサージをしたりお薬を調節しながらケアをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	なるだけ本人の入りたい時には入れる様支援している。拒否する利用者に対しては、タイミングや職員との相性なども考慮にいれながら支援している。	午前でも午後でも入浴することができ、利用者の希望にそった入浴支援をしている。 入浴を嫌がる利用者にはタイミングを見計って声かけし、入浴ができるように支援をしている。	利用者一人ひとりの希望にそった入浴支援を継続し、さらに入浴が楽しめるよう、季節に合わせた入浴剤等の利用を提案する。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事のあとの休憩や、本人が眠りたい時間に寝ていただくなどして支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては、間違いがないように主に、看護師、管理者が関わり、服用の際には、一人以上の薬を一度にもっていかないようにするなど、誤薬を予防している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が好きなおことや得意な事を日々の生活に活かしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候的に寒い時期や暑い時期にはなかなか散歩には行けないので外出が好きな利用者には一緒に車に乗って買い物にでかけたりして外出を楽しんでもらっている。	職員はその日の天候や利用者の体調に配慮しながら散歩に出かけられるように支援をしているほか、初詣や花見など普段は行けないような場所にも出かけられるように支援をしている。 利用者は日常的に庭に出て外気浴を楽しんでいる。 職員と一緒に行く買い物は利用者の楽しみの一つとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が管理できないに関係なく本人の希望で所持して貰っているが現状では所持している入居者はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1階の入居者のご家族は、みなさん定期的に面会に来て下さっているので、特に電話や手紙のやり取りはあまりしていない。会う事が一番うれしいようです。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その季節にちなんだ行事や、飾り物など、スタッフが積極的に気づき、入居者の方と一緒に準備、片づけを行ってくれるようになった。	共用空間は十分な広さがあり、中庭を設けることにより光が取り入れられ、換気にも配慮されている。 花や人形などが飾られ、家庭的な明るい雰囲気となっており、利用者が安心して過ごせるように配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にベンチを置いたり写真を飾っている。また気の合う利用者同士、居室内で楽しくお話したり、一緒に寝たりと思い思いに過ごして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者によってさまざまです。家族の写真がかざってあったり、少しでも馴染みのものを持ってきていただくようにはしている。	利用者は居室に使い慣れた布団や日用品を持ち込んだり、家族等の写真や思い出の物品を飾り、居心地よく暮らせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物が広々とした設計になっているので、長い廊下をいかして歩行訓練を行ったり、ベットや椅子などはその人に合った安全でかつ自立できるようなものを、随時選んでいる。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある <input type="radio"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input checked="" type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input checked="" type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 花あかりの家

作成日 平成23年9月29日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を管理者と職員は共有して実践していない。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成しスタッフがそれを共有できるようにしていく。	管理者会議でスタッフ全員が共有できる身近な理念を作成し、ミーティングでスタッフと話し合いながら最終的に期間を決めて実践していく。	2～3ヶ月
2	4	市町村担当者との連携体制が代表者は取れているが各ユニットの管理者まで取り組めていない。	各ユニットの管理者も市の担当者と積極的に連携がはかれるように取り組んでいく。	運営推進委員会に積極的に参加するようにし、要望や意見が述べられるように取り組んでいく。	6ヶ月～1年
3	6	日々生活する中で利用者や家族の要望・意見がうまく反映されていない。	利用者や家族等が気兼ねなく意見や要望を出せるようにアンケートを実施したり、家族会を設立する。	家族会設立のために会則規定を作り、利用者家族へ通知、立ち上げの説明を行う。アンケートは家族会設立後に行う予定。	半年～1年
4	13	地震災害も含め緊急時の避難方法や入居者への対応マニュアル等の見直しができている。	火災や地震、水害等の災害時に昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員がみにつけ、地域との協力体制を作っていく。	災害時等のマニュアルの見直しを行い対応の仕方を全職員が理解するようにする。避難訓練の実施記録を作成し、訓練で改善しなければならない点を記録し次回の訓練に活かすようにする。近隣との交流、協力要請をはかる。	5～6ヶ月
5	17	個々の入居者の希望に沿った入浴介助は行われているが、入浴を楽しむ工夫はなされていない。	入浴が楽しめるよに入浴剤を入れたり、季節の果物や花を浮かべてみる。	いろいろな温泉の入浴剤を入れてみたり、季節ごとにゆずやりんごを浮かべたりして楽しんで頂く。	1ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。